テクネ・マクラ「芸術は永し」

TEXNH MAKPA

女子美術大学歴史資料室ニューズレター

第9号

佐藤高等女学校門前　　昭和3年（1928）頃

２０１６年3月１５日発行

理事長就任挨拶

女子美の歴史を学ぶ

福下　雄二（本学理事長）

昨年6月に大村智前理事長（名誉理事長）の後を受けて女子美術大学理事長に就任しました。

本年、女子美術大学は創立116周年を迎えます。これまで一貫して「芸術による女性の自立」、「女性の社会的地位の向上」、「専門の技術家・美術教師の養成」という建学の精神を堅持しながら、116年の風雪に耐え、幾多の困難を乗り越えて今日に至っております。

建学の精神や歴史を学ぶことによって、多くの先人の知恵や努力の積み重ねがあって今日の女子美術大学が成り立っていることを知ることができます。この歴史の延長に女子美術大学の進むべき道が示されます。

女子美術大学は、女性に美術高等教育の門戸が閉ざされていた明治33年（1900）に、幕末の政治・社会思想家横井小楠の流れを汲む横井玉子先生によって、本郷弓町（現文京区）に「私立女子美術学校」として誕生しました。

同年に創立された女子英学塾（現津田塾大学）や東京女医学校（現東京女子医科大学）と同様に、職業専門教育を目指す女子高等教育機関の草分けとして創立されました。私立の美術大学としては最も古い歴史をもつ大学であります。

創立後まもなく経営難に陥る「私立女子美術学校」の経営を引き継ぎ、校主・校長として廃校の危機から救ったのが順天堂第三代堂主佐藤進夫人の佐藤志津先生です。

女子美術大学の116年に及ぶ歴史は決して平坦なものではありませんでした。火災、戦災など幾多の困難に遭いながらも、先人の弛まぬ努力により数多くの女性芸術家、美術教師、デザイナーといった人材を輩出し続けております。

特に作家としては文化勲章受賞者の片岡球子（日本画家）、大久保婦久子（皮革造形作家）、文化功労者の三岸節子（洋画家）、郷倉和子（日本画家）といった戦後の画壇を語る上で、欠くことのできない女性芸術家を生み出してきました。

女子美術大学の116年にわたる輝かしい歴史を学んでいただき、誇りを持っていただきたいと思います。それによって学校に対する愛着心も生まれ、連帯感や帰属意識を創り出すことになります。それが大学としての女子美の力を強めることになります。

女子美術大学では創立110周年記念事業の一つとして平成24年（2012）、杉並キャンパスに歴史資料展示室を設けました。これまでの女子美術大学の歴史を研究・展示することで、創立者・功労者の功績・努力を顕彰するとともに、自校史教育の場としての活用だけでなく学外に向けて本学の歴史を伝えていくこととしております。

最後に、本学名誉理事長大村智先生が、昨年ノーベル生理学・医学賞を受賞されました。本学にとっても大変名誉なことであります。この度、歴史資料展示室において、大村智先生の業績を称える企画展を開催する予定としております。是非ご覧いただければ幸いです。

女子美術大学付属高等学校・中学校創立100周年
～描く100年　創る100年～

小川　正明（付属高等学校・中学校校長）

2015年、女子美術大学付属高等学校・中学校は創立100周年の大きな節目を迎えました。

本校は、大正４年（1915）、佐藤志津により女子美術学校附属高等女学校として女子美術学校の在る本郷菊坂校舎内に開設されました。その翌年に佐藤高等女学校と改称し女子美術学校の姉妹校としての色彩が強い時代を迎えます。その後、幾多の困難を乗り越え、第2次世界大戦後の1949年女子美術学校は女子美術大学に、1951年佐藤高等女学校は女子美術大学付属高等学校・中学校となり今日に至りました。

今の付属の原型を作ったのは、大学の教務部長で、付属の主事であった園池公功でした。「女子美術大学の付属校にふさわしい美的感覚ゆたかな教養ある卒業生を輩出する」との決意から、美術や家庭科の授業を充実させた本校独自のカリキュラムが確立されました。

今回、多くの関係者の皆さまにご協力をいただき「創立100周年記念 略年史」を編纂しましたが、これまであまり知られていなかった佐藤高等女学校時代や戦後の混乱期のこと、さらには佐藤志津ゆかりの順天堂や順天堂大学との関係も明らかになって参りました。

昨年は、多くの記念行事・事業を実施しました。5月に上野の森美術館で開催した記念展覧会「未来へつなぐ展」では、今の付属の美術教育を知っていただくため生徒作品を中心に展示しました。また、15年に亘る大村文子基金卒業制作奨励賞の受賞作品や現在幅広い分野で活躍する卒業生の作品、さらに美術教員の作品も展示し多くの方にご覧頂きました。8月には生徒から募集した原画をもとに記念のモザイク壁画を制作しました。この2メートル四方のモザイクは、生徒自らが材料のガラスや大理石を小さく砕いて貼り込んだ本格的なもので、完成作品は体育館内に設置展示しています。

そして、10月30日の創立記念日に、中野サンプラザ大ホールにて、創立記念式典および祝賀会を多くのご来賓の皆さまをお迎えし開催しました。式典に先立ち、本年度ノーベル生理学・医学賞と文化勲章を受賞された大村智名誉理事長をお祝いするセレモニーを行い、生徒代表より花束と記念品が贈られ、厳粛なうちにも和やかな雰囲気の中で式典、祝賀会を執り行いました。

小川校長と大村名誉理事長。付属生徒たち

本校は、女子美術大学の付属校として、日本でもっとも長い歴史と伝統に誇りを持ち、義務教育課程である中学校においても、全日制普通課程の高等学校においても、美術教育に最大の特色を持つ学校として、日本はもとより、世界的にみても大変ユニークな教育活動を実践してまいりました。その結果、アーティストやクリエーターとして社会の様々な分野で活躍する多くの卒業生を送り出しております。これからも美術をとおして有能な女性を育み、佐藤志津先生はじめ多くの先人の教えを継承し、次の100年に向かって羽ばたいてまいります。

取材レポート

青木純子先生インタビュー
～女子美術学校の美の原点を解く～

梁　丞延（ヤン・スンヨン）（歴史資料室学芸員）

青木純子氏の自宅にて

昭和20年（1945）に佐藤高等女学校（現女子美術大学付属高等学校・中学校）【註１】を卒業し、本学の非常勤講師、付属の家政科教諭を長年勤められた青木純子先生。平成11年（1999）には、本学の成り立ちについて、横井玉子・佐藤志津らの大学創立、募集難による存続危機からの再建、学校の維持発展に関わった人物に焦点を当てた『美の原点：女子美術学校創立・再建の謎』（J.A.C.企画）を出版するなど、独自の視線で研究を続けられてきました。また、昭和23年（1948）頃、青木先生が進学された東京家政学院大学時代には「日本の（中略）これから生きる道は芸術と文化しかない」と戸田貞三校長の言葉を受け、本格的に音楽の世界にも足を踏み入れる事になります。青木先生は付属器楽部の顧問も長らく勤められました。本インタビューを通じて、出版のきっかけから協力者や出版後の話などについて語っていただきました。

菊坂校舎が燃え落ちる６時間前に学校を出た最後の生徒

青木純子先生（以下省略）：

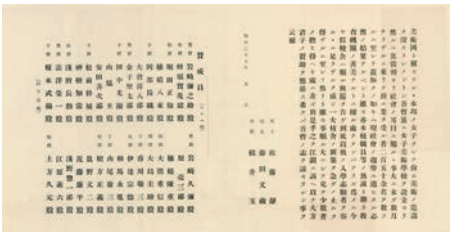
昭和20年（1945）３月10日の東京大空襲で佐藤高等女学校の本郷菊坂校舎が焼け出される前の晩、声楽の土屋富貴子先生が、お当番で学校にいらっしゃるから遊びに行こうと、工場で働いた後に友達と二人で学校へ行きました。その頃はピアノの音を出したり、歌を歌うと、非国民と言われた時代ですが、学校であれば、外に音が聞こえないので、先生にピアノを弾いたり歌を歌っていただいたりして、夢のような時間を過ごしました。夜８時になり、先生と３人で菊坂を下りると、当直の八木先生が坂を上がって学校にお入りになりました。その６時間後に東京大空襲が起きました。その空襲で八木先生は学校と運命をともにされたのでした。

家政科の教諭をした私が、学校の成り立ちについて本を書いたのは、学校が燃える前の最後の夜を過ごし、空襲で亡くなった先生とすれ違い、また、通学するとき、いつも御茶ノ水より順天堂病院の横を通ったことなど、すべてがご縁だと思っていたからです。

横井家と佐藤家との出会い
～横井小楠の曾孫横井和子と佐藤家系図「藤のゆかり」～

平成６年（1994）に横井玉子が九州の熊本で文化功労者として表彰されたのです。幕末の思想家横井小楠（横井玉子の義父）の曾孫であるピアニストであり、大阪教育大学名誉教授の横井和子先生が、その新聞を持って、芦屋から大学においでになりました。私はその話を聞き、和子先生にお電話し「今調べものをしているのですが、先生にもお目にかからせていただけますか」とお願いしたら、「喜んで」と和子先生が仰って、銀座ではじめてお会いしました。それから演奏やピアノ教授で東京にいらっしゃる度に、横井家に関する資料やお話をしていただいて、やっと創立の役割をはたした横井玉子の存在が分かり、本も書けました。

また、佐藤家には「藤のゆかり」という名前が付いている家系図があり、それを、本学第二代理事長を務めた佐藤達次郎の令嬢である伊沢夙さんからいただきました。長さが2メートル以上あり、歴史研究者ではない



私立女子美術学校新校舎建設のための寄付を求める書簡　明治35年（1902）

私には頭が痛いほどでしたが、森鴎外や、榎本武揚、福沢諭吉など、大変有名な人たちが親戚の中にずらりと出てくるのですね。当時、校務が多忙でなかなか手がつけられなかったのですが、後に調べ出して、写真を入れた系図も作る事が出来ました。「藤のゆかり」がなかったら、佐藤家について、全然分からなかったと思います。

女子美の初期資料
～明治35年（1902）「新校舎建設のための寄附を求める書簡」～

平成22年（2010）のある日、佐藤家とゆかりの深い順天堂大学で医史学を研究されている酒井シヅ先生（現順天堂大学名誉教授、順天堂大学日本医学教育歴史館館長）より「福島にとてもいい資料がありそうだから、ぜひ一緒に行きましょう」とお手紙をくださって、当時、歴史資料室調査役であった遠藤九郎さんと一緒に福島に行きました。私はそれを見て驚いたのですが、貴族の方をはじめとする女子美新校舎建設への寄付趣意書の発起人名簿には有名な方々ばかりが登場します【註２】。明治33年（1900）に学校を開く前に、ヨーロッパに洋学を学びに行って、日本の女性の生き方と外国の女性の生き方が全然違うことが分かっている方たちだったのでしょう。

大隈重信や岩崎彌之助など、各界の相当著名な方が名を連ねてくださったのは、佐藤志津が明治35年（1902）から校主になって、鹿鳴館で知り合った貴族の方たちに声をかけてくださったのも大きい。これだけ手助けをしていただいて、理解のある方々がそばにいたことが大きな力になったと思います。

私は学校の校則がきちんと出来たのは大正６年（1917）になってからだと思って『美の原点：女子美術学校創立・再建の謎』を書いたのですけども、もう明治35年（1902）にきちんとした規則が出来上がったのは、佐藤志津の夫であった佐藤進（第三代女子美術学校校長、財団法人女子美術学校初代理事長、第三代順天堂堂主、男爵）がいたからだと思います。

明治33年（1900）、女子の絵の学校を創立する横井玉子

学校といえばこの頃は、そろばんの塾かお裁縫の学校か、そのような内容の学校しか考えられない時代に、女の子の絵の学校なんて、どこから出たのかなと思うのです。横井玉子という方のセンスがすごいと思うのは、絵を描くことによって、どうやったら美しく見えるのか、着物のデザインがよく映えるか、内面がきれいになるのか。生活に絵が直接結びつくことが分かったのでしょう。それで玉子は絵の学校を創ることに命をかけたはずです。

世界に二つしかない女子美術学校

でもそれは元を辿ってゆくとご主人であった横井佐平太が、慶応２年（1866）、ひそかにアメリカに渡航していますね。その時、女子美よりも50年以上前に、すでに女性のための絵の学校がフィラデルフィアに一校だけあった。今もうちとそこだけです【註３】。

当時、女性が絵を描くなんて想像もつかない世界を作り出した玉子はすごい方ですね。今はどんな仕事でも美的なものが入ってこないと成り立たない。その意味で玉子は先見の明がある方だと思います。

註
1　横井玉子の遺志を引き継いだ佐藤志津により大正4年（1915）に設立
2　本資料に関しては『テクネマクラ』第3号参照
3　1848年にイギリスの領事の夫人、サラ・ワーシントン・ピーターが、アメリカで最初の、女性の職業訓練のため建てられたPhiladelphia School of Design for Women（現Moore College of Art and Design）を示す

インタビューは2015年11月30日、青木純子先生のご自宅にて行いました。

女子美歴史資料コレクション

柳田ケイ氏の日記

土屋　麻実（歴史資料室学芸員）

柳田氏の日記。その一部

【写真１】目黒雅叙園で行われた佐藤八千代夫妻帰朝歓迎会

2015年、女子美術大学付属高等学校・中学校が創立100周年を迎えましたが、そこに至るまでには多くの教職員が運営に携わってきました。今回はそんな中の一人、柳田ケイ氏の日記を当資料室の貴重な資料としてご紹介します。

柳田ケイ氏は、女子美術学校と佐藤高等女学校（現女子美術大学付属高等学校・中学校）の書記と佐藤高等女学校の国語教員を大正6年（1917）から約27年間もの間勤めた人物です。本資料は、柳田氏の娘の太田秀氏（女子美術専門学校師範科裁縫部卒業、佐藤高等女学校元教員）より御寄贈いただきました。御寄贈いただいたのはもう数年前になりますが、この度、付属100周年にあたり資料として使用するため内容の確認作業を行いました。ほぼ365日毎日書かれた日記は全部で12冊。日記自体は柳田氏のプライベートなものなので、そのあたりの内容は割愛させていただきますが、学校での出来事や行事について詳細に記されているのに加え、二・二六事件当日の様子や、菊坂の校舎がほぼ全焼してしまった東京大空襲の日の事など、歴史的事件当時の学校の様子を知ることができる重要な資料となっています。今回は、そんな柳田氏の日記によって写真資料の年代と日付が特定できた一例をご紹介します。

【写真1】は以前寄贈され資料室で保管している写真です。ここに写っているのは当時の女子美術専門学校と佐藤高等女学校の職員で、左端には柳田ケイ氏もいます。元所蔵者の情報から、この写真が、昭和初期に目黒雅叙園で行われた佐藤八千代氏（創立者の一人、佐藤志津の孫）夫妻の帰朝歓迎会で撮影されたものである事は判明していましたが、詳細な年代の特定には至らないまま保管をしてきました。しかしこの度の確認作業の中で、以下のような記述を見つける事ができました。

「昭和9年3月6日　今日ハ目黒雅叙園ニテ佐藤八千代夫妻帰朝歓迎会を開ク　両校職員五二名他、校長御夫妻併セテ五四人」

上記の54人に八千代夫妻を含めると、歓迎会には56人が参加したという事になります。そして写真には56名が写っています。人数が一致している事や、目黒雅叙園で行われた帰朝歓迎会、昭和初期という点から、この写真が日記に記された出来事であることは間違いないでしょう。こうして一つ、写真資料の情報を追記する事ができました。

資料の寄贈を受けた段階で判明していない事が、別資料から明らかになるという事例が現在まであまりなかったため、今回の発見は当資料室にとって大変大きなものでした。そして、この柳田ケイ氏の日記には我々が知るべき情報がまだ数多く載っているでしょう。引き続き調査を行い、今後また新たな事実がわかり次第、紙面でご紹介できればと思います。

歴史資料室日誌 2015年4月～12月

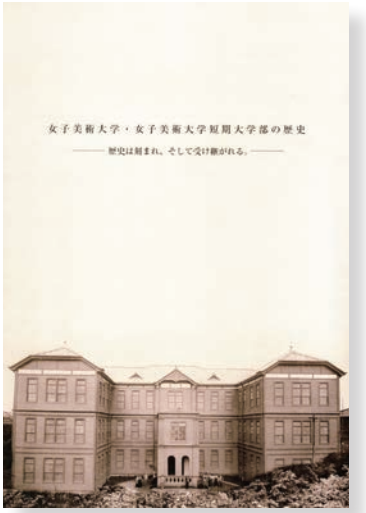
4月

○女子美術大学歴史資料展示室にて展覧会「平成27年度収蔵資料展　収蔵資料にみる女子美の歩み―女子美術大学付属高等学校・中学校創立100周年記念―」開催。（2015年4月3日～2016年3月13日）

○平成27年度入学式にて、学校史パネルを展示。（東京・中野サンプラザ）

入学式　パネル展示の様子

○新1年生が受講する基礎学習ゼミの自校史を担当（4月～5月）。それに合わせて、新しい教科書「女子美術大学・女子美術短期大学部の歴史」を発行。



5月

○平成27年度第1回歴史資料整備委員会を開催。

6月

○埼玉県立新座総合技術高校生徒インターンシップ受け入れ。

資料カード作成

7月

○第2回全国大学史展に資料貸出と画像提供を行う。

○平成27年度第2回歴史資料整備委員会を開催。

9月

○千葉県佐倉市立志津公民館主催「しづ市民大学」の皆様 歴史資料展示室・女子美ガレリアニケ見学。ヤン学芸員講演。

講演の様子

見学の様子

○平成27年度第3回歴史資料整備委員会を開催。

12月

○平成27年度第4回歴史資料整備委員会を開催。

○横井玉子墓石碑＜谷中霊園＞および佐藤志津墓石碑＜吉祥寺＞の現況調査　4名（齊藤経生名誉教授、川上勇歴史資料室員、遠藤九郎元歴史資料室調査役、津森和治元職員）

谷中霊園にて

寄贈報告 2014年10月～2015年12月

作品・資料をご寄贈いただいた方の御名前を記し、
感謝の意を表します。（御寄贈順）

- 野村鮎子氏　『奈良女子高等師範学校とアジアの留学生』
- 田邊麗子氏　『本の文化FORUM』第11号
- 日本経済新聞社『生誕110年 片岡球子展』図録
- 小板橋きん氏　教養科目教科書
- 森田恭生氏　森田元子映像資料
- 岩田嘉之氏　芹沢銈介カレンダー　6点
- 桜田悠子氏　『女子美術専門学校鏡友会女子美術専門学校同窓会会報 記念号』（昭和6年）

平成27年度 歴史資料整備委員会委員紹介
（任期　平成27年6月～平成29年5月）

委員長　原　　聖　（歴史資料室室長、芸術学部教授）
委　員　鹿島　　繭　（短期大学部教授）
　　広瀬　晴美　（芸術学部准教授）
　　八木なぎさ　（短期大学部准教授）
　　松崎　笙子　（外部嘱託委員）
　　谷口　秀子　（外部嘱託委員）
　　小川　桂子　（外部嘱託委員）
　　玉田里佳子　（事務職員）
　　内藤　幸江　（事務職員）

歴史資料の寄贈について

女子美術大学歴史資料室では本学の学校史・教育に関係する歴史資料の収集を行っております。収集にご協力いただける場合は、歴史資料室までご連絡ください。ご厚意に沿えない場合もありますので、あらかじめご了承ください。また、寄贈いただいた資料の取り扱いは、歴史資料室に一任ください。

表紙写真

佐藤高等女学校門前
昭和3年（1928）頃

昭和3年（1928）3月発行の『佐藤高等女學校第拾壹回本科卒業生記念帖』に掲載された佐藤高等女学校（現女子美術大学付属高等学校・中学校）校門前の写真。
大正4年（1915）本郷菊坂町の女子美術学校敷地に建てられた私立女子美術学校附属高等女学校は、翌年、佐藤高等女学校と改称し、昭和20年（1945）3月10日東京大空襲により全校舎が焼失するまでの30年間、菊坂でその歴史が続けられました。

テクネ・マクラ「芸術は永し」
TEXNH MAKPA　第９号

女子美術大学歴史資料室ニューズレター
発行日：2016年3月15日
編集・発行：女子美術大学歴史資料室
デザイン担当：竹田奈那子
制作・印刷：株式會社 日相印刷

〒166-8538 東京都杉並区和田1-49-8　女子美術大学１号館１階
TEL：０３-５３４０-４６５８　　FAX：０３-５３４０-４６８３
E-mail：heritage@venus.joshibi.jp
URL：http://www.joshibi.net/history/
女子美術大学